

日々是Oracle APEX

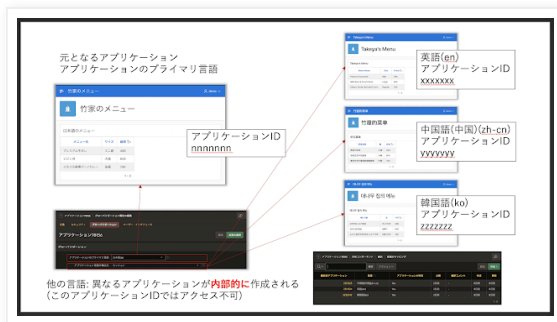
Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2020年6月4日 木曜日

Oracle APEXアプリケーションのグローバル化(3) - 言語マッピングの作成

Oracle APEXアプリケーションをグローバル化する手順の説明です。[こちらの記事](#)からの続きになります。

Oracle APEXのアプリケーションの各言語への対応は、異なるアプリケーションを内部的に作成し、それに言語をマッピングすることで行われます。



言語の切り替えには、**グローバル化**の設定に含まれる**アプリケーション言語の導出元**の設定が使用されます。

それでは、前回作成したOracle APEXのアプリケーションに言語マッピングを追加し、それぞれの言語に対応させる手順を紹介します。

アプリケーション・ビルダーでアプリケーションを開き、**共有コンポーネント**の**グローバル化**のグループにある**アプリケーションの翻訳**を開きます。



アプリケーションの翻訳に関する作業は、ほぼ全て、このページに集約されています。また、アプリケーションの翻訳作業としては、左にある**翻訳方法**のリストを上から順番に行っていくことが想定されています。



つまり、

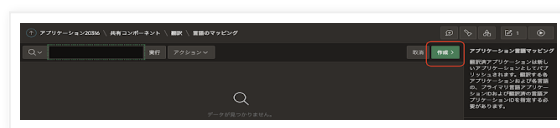
1. アプリケーション言語の定義
2. 翻訳可能なテキストのシード
3. XLIFF翻訳ファイルのダウンロード
4. テキストの翻訳
5. XLIFF翻訳ファイルの適用
6. 翻訳済アプリケーションのパブリッシュ

です。3, 4, 5のXLIFF翻訳ファイルを利用した翻訳作業は、一番下にある**翻訳リポジトリ**を直接編集する作業で置き換えることができます。

では、定義された翻訳ワークフローに沿って、作業を行います。

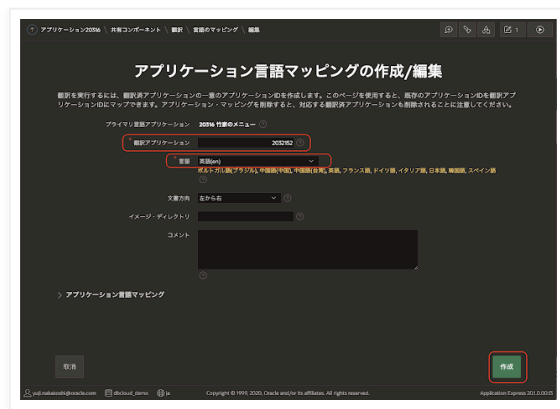
アプリケーション言語の定義

アプリケーション言語の定義を開きます。最初は何も**言語のマッピング**は登録されていません。ここで、**作成**をクリックします。



翻訳アプリケーションの内部的なアプリケーションIDとなる**数値**と**言語**を指定して、**作成**をクリックします。すでに使用済みのアプリケーションIDは指定できないため、**空いている番号を自力で探して指定**する必要があります。これはOracle APEXをホストしているインスタンス全体で一意(ワークスペースではない)である必要があります。そのため、実際は空いていそうな数値を入力し、**作成**をクリックしてエラーが発生したら数値を変えてやり直す、という手順にならざるを得ない場合があります。

アプリケーションIDとなる数値と、マッピングする言語を指定した後、**作成**をクリックします。



文書方向は**左から右**です。Oracle APEXは**右から左**へ記述する言語(ヘブライ語やアラビア語) への対応も機能として持っています。

同様に、**中国語(中国)(zh-cn)** - いわゆる簡体字 - と**韓国語(ko)**も追加します。結果として以下の言語のマッピングが登録されます。

翻訳済アプリケーション	言語	アプリケーションが存在	公開	翻訳コメント	作成	更新
244629	中国語(中国)(zh-cn)	No	-	-	14分前	14分前
203162	英語(en)	No	-	-	10分前	10分前
234224	韓国語(ko)	No	-	-	現在	現在

翻訳可能なテキストのシード

翻訳可能なテキストのシードを開きます。

翻訳済アプリケーション	言語	公開	文字列	翻訳の文字列	同梱化が必要
244629	中国語(中国)(zh-cn)				はい
203162	英語(en)				はい
234224	韓国語(ko)				はい

翻訳済アプリケーションに付いている**チェックボックス**を個別に**クリック**するか、全体のチェックボックスをクリックして、全ての翻訳済アプリケーションを選択します。そして**シード**を実行します。プライマリ言語で作成されたアプリケーションに含まれる、翻訳可能な文字列が翻訳対象となっているアプリケーションにすべてコピーされます。

翻訳済アプリケーション	言語	公開	文字列	翻訳の文字列	同梱化が必要
244629	中国語(中国)(zh-cn)		69	46	はい
203162	英語(en)		69	46	はい
234224	韓国語(ko)		69	46	はい

翻訳対象の**文字列**は69あり、その中で重複を除く46の**個別の文字列**がある、とレポートされています。

XLIFF翻訳ファイルのダウンロード

XLIFF翻訳ファイルのダウンロードを開きます。翻訳先になる言語を選び、アプリケーションのXLIFFファイルのエクスポートを実行します。この例では言語として英語(en)を選び、XLIFFターゲット要素を含めるにチェックを入れ、そしてエクスポートにはすべての翻訳可能な要素を含めます。ページ単位でXLIFF翻訳ファイルを出力することも可能です。



XLIFF (XML Localization Interchange File Format) はソフトウェアや文書の国際化、翻訳のために開発された XMLベースのファイル形式です。XLIFFファイル自体については、Wikipediaの[該当エントリ](#)などを参照してください。

アプリケーションのXLIFFファイルのエクスポートを実行すると、XLIFFファイルがダウンロードされます。ファイル名は

f翻訳元アプリケーションID_翻訳先アプリケーションID_翻訳元言語_翻訳先言語.xlf

となります。XLIFFファイルの内容は、以下のようなtrans-unit要素の集まりです。

```
<trans-unit id="S-6-1-20316">
<source>竹家のメニュー</source>
<target>竹家のメニュー</target>
</trans-unit>
<trans-unit id="S-106-21345516472514205825-20316">
<source>メニュー名</source>
<target>メニュー名</target>
</trans-unit>
<trans-unit id="S-106-21345516575424205826-20316">
<source>サイズ</source>
<target>サイズ</target>
</trans-unit>
<trans-unit id="S-106-21345516657757205827-20316">
<source>値段</source>
<target>値段</target>
</trans-unit>
```

チェックボックス**XLIFFターゲット要素を含める**のチェックを外していると、この中のtarget要素は含まれなくなります。翻訳作業はtarget要素を置き換えるのではなく、target要素の追加になります。また**翻訳が必要な要素のみ**を選ぶと、すでに翻訳済みの文字列はXLIFFファイルに含まれません。

テキストの翻訳

テキストの翻訳として翻訳方法にありますが、これをクリックしてもOracle APEXで実施できる作業はありません。



XLIFFファイルのtarget要素を対象の言語に翻訳する作業は外部に委託する場合が主です。そして、翻訳済みのXLIFFファイルを受け取って、次のステップへ進みます。

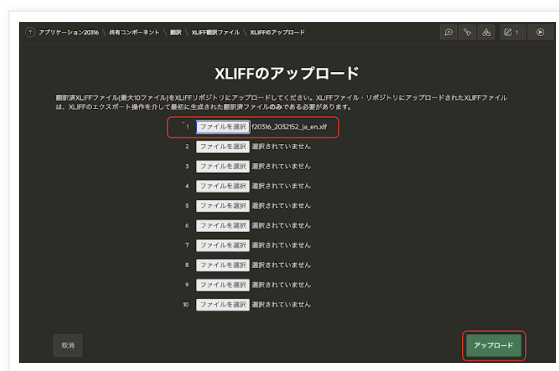
この記事での翻訳はXLIFFファイルを使わず、翻訳リポジトリを直接編集する予定ですので、XLIFFファイルの編集作業は行いません。

XLIFF翻訳ファイルの適用

XLIFF翻訳ファイルの適用を開きます。ここでは手順の紹介のみで、実際の作業は行いません。



翻訳済みのXLIFFファイルをアップロードします。先ほどダウンロードしたファイルをそのままアップロードしてみます。最低でもファイルをひとつ選択し、**アップロード**を実行します。



アップロードされたXLIFFファイルが一覧に現れます。翻訳を適用するファイル名にチェックを入れ、**翻訳に適用**にて対象言語を選びます。そして、**チェックした項目の適用**を実行すると、XLIFFファイルの内容が翻訳リポジトリにロードされます。今回はこの実行は不要です。

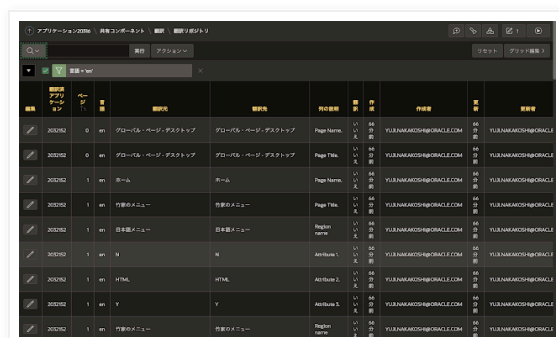


翻訳リポジトリの直接編集

アプリケーションの翻訳を専門業者に任せるとする、もしくは、分業できる場合はXLIFFファイルを使った手順は有効です。そうでない場合、例えば、ちょっとしたアプリケーションであったり、一部のレポートだけを対象としたり、翻訳だけを任せるリソースがなかったり。そのような場合では、翻訳リポジトリの直接編集が有効です。



翻訳ユーティリティの翻訳リポジトリを開きます。

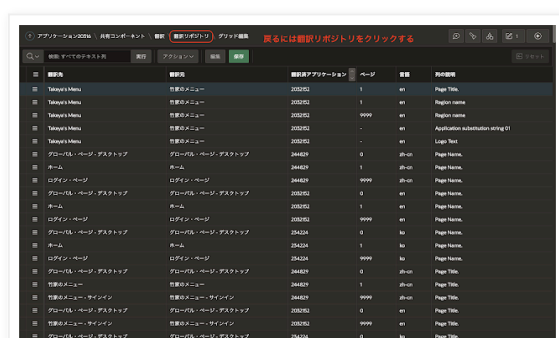


ここからは力作業で、レポートに含まれる列、言語で指定された言語に翻訳先の文字列を置き換えていきます。鉛筆マークをクリックすると、編集フォームが開きます。



翻訳先の言語に合わせて、翻訳先テキストを入力します。この文字列のすべてのn件の発生を更新しますにチェックを入れると、翻訳元テキストが同じ場合、それらも同時に置き換えます。

グリッド編集を選ぶことで、対話グリッドを使った編集作業も行うことができます。



以下の表に翻訳する文字列と、それぞれの言語への翻訳を一覧します。これらを参考に、翻訳リポジトリを更新します。例えば、英語のみ、または、一部の文字列のみでも、Oracle APEXのアプリケーションの翻訳手順はわかりますので、必ずしも全て更新しなくても大丈夫です。

日本語(ja)	英語(en)	簡体中国語(zh-cn)	韓国語(ko)
竹家のメニュー	Takeya's Menu	竹屋的菜单	대나무 집의 메뉴
日本語メニュー	English Menu	中文菜单	한국어 메뉴
ホーム	Home	主页	홈
言語セレクト	Language Selector	语言选择器	언어 선택기
サインイン	Sign In	登录	사인인
ユーザー名を記憶	Remember username	记住用户名	사용자 이름 기억
パスワード	Password	密码	비밀번호
ユーザー名	Username	用户名	사용자 이름
竹家のメニュー - サインイン	Takeya's Menu - Sign In	竹屋的菜单 - 登录	대나무 집의 메뉴 - 사인인
ログイン・ページ	Login Page	登录页	로그인 페이지
メニュー名	Menu Name	菜单名称	메뉴 이름
サイズ	Size	量	양
値段	Price	价钱	가격
デスクトップ	Desktop	桌面	데스크톱
サインアウト	Sign Out	注销	사인아웃

翻訳済アプリケーションのパブリッシュ

翻訳リポジトリの内容を更新したら、**翻訳済アプリケーションのパブリッシュ**を開きます。



それぞれの言語について、**同期化が必要**の列が**はい**であれば、**パブリッシュ**を実行する必要があります。前回パブリッシュしたのち、アプリケーションに変更があった場合は、**シード**も再実行します。シードとパブリッシュを再実行することで翻訳済みのアプリケーションに変更が適用されます。XLIFFファイルの出力時に、**翻訳が必要な要素のみ**という選択項目がありましたが、これは、このようなアプリケーションの変更に伴う追加の翻訳のために使用するオプションになります。

パブリッシュを実行すると、**同期化が必要**が**いいえ**に変わります。



動作確認

今までの作業で、Oracle APEXのアプリケーションに含まれる言語リソースの翻訳は完了になります。また、アプリケーション自体も多言語に対応しました。

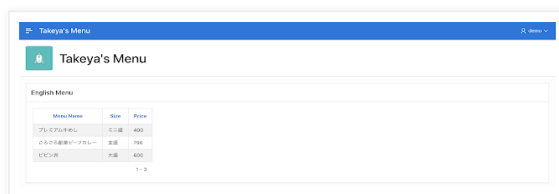
アプリケーション・プロパティの編集からグローバル化セッション属性の編集を開き、アプリケーション言語の導出元として、一番デバッグが容易なセッションを選択し、変更の適用を行います。



アプリケーションを実行して動作確認をしましょう。



言語セレクトを使って、言語を切り替えてサインインします。Englishを選んでログインした際のレポートは以下のように表示されます。



ページのタイトルやレポートのタイトル、項目名などは翻訳されていますが、データそれ自体は翻訳されていません。Oracle APEXのアプリケーションを多言語に対応させるには、Oracle APEXでの構成だけではなく、アプリケーション自体も多言語に対応させる必要があります。

次のトピックからは、アプリケーション自体を多言語に対応させる方法について紹介します。

続く

Yuji N. 時刻: 18:17

共有

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
